

○ 救 急

平成26年中に救急車が出場した件数は、3,292件で前年より100件増加しました。これを1ヶ月当たりになると約274件、1日当たりになると約9件となります。

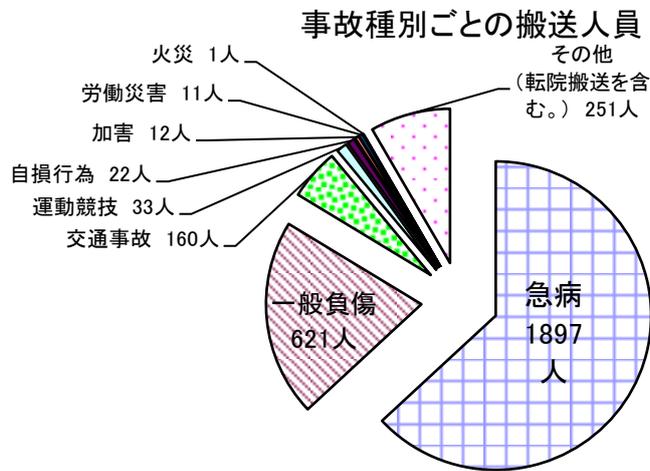
搬送人員は、3,008人で前年より27人増加し、市民の19人に1人が救急隊によって搬送されたこととなります。上位を占めているものは、急病1,897人、一般負傷621人、転院搬送246人、交通事故160人となっています。

また、搬送人員の傷病程度をみると、軽症1,631人(54.2%)、中等症1,141人(37.9%)、重症181人(6.0%)、死亡54人(1.8%)、その他1人(0.1%)と、軽症者が半数以上を占め、高い比率となっています。

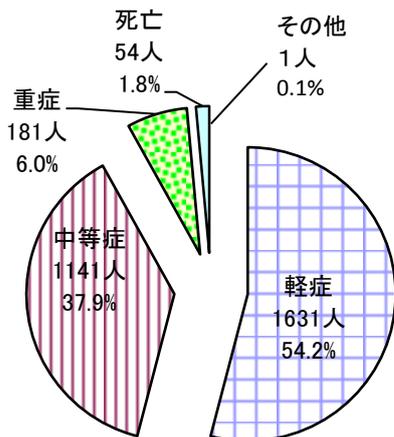
一方、65歳以上の搬送人員1,921人のうち、入院治療を必要とする中等症以上の者は、1,025人(53.4%)となっています。

搬送先別では、市内医療機関への搬送が140人(4.7%)に対し、市外医療機関への搬送は2,868人(95.3%)となっており、当然ながら1件の救急出場に要する時間は長くなっています。

このため、消防本部では、本当に救急車を必要とする救急患者の利用を妨げないように、緊急性のない場合などは救急車を利用しないよう、市民一人ひとりに協力と理解を呼びかけるとともに、市民に対する普通救命講習等の応急手当の普及活動を実施し、なお一層の効果的で円滑な救急業務を目指しています。



傷病程度ごとの搬送人員(全体)



傷病程度ごとの搬送人員(高齢者)

